

第5学年〇組 学級活動（2）指導案

日 時：令和2年11月〇日第〇校時

場 所：5年〇組教室

指導者：担任・歯科衛生士

1. 題材

「よくかんで食べよう」

学級活動（2）エ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

2. 題材について

（1）児童の実態

良いことや決められたことを素直に受け止めることができ、呼びかけ合いながら行動しようとする児童も多い。他方で、望ましい生活習慣（食習慣）が身につけていないか、すぐに意識が薄れ、活動を継続できなかつたりする児童もみられる。「よく噛んで食べる」ことが大切であることもほとんどの児童が知っているが、自分がどれくらい噛んで食べているかを意識している児童は少なく、事前調査でも、1口30回以上噛んでいる児童は4割以下である。また、スープや牛乳で流し込むように食べている児童もいる。

（2）題材設定の理由

第2大臼歯が生え始め、歯列が完成に近づく5年生の時期は、仕上げみがきや間食の選択等、保護者の手が離れていく時期でもあり、むし歯や歯肉炎も増加する傾向にある。また、学校生活においては食欲が増し、多くの量を食べたり、係や委員会等の活動のために、短時間で食事を終えようとしたりするようになる。本題材を通して、よく噛むことの重要性をしっかりと理解し、よく噛んで、健康な生活を送ろうとする意欲をもつことができるようにしたいと考える。

3. 第5学年及び第6学年の評価規準

観点	よりよい生活や人間関係を築くための知識・技能	集団の一員としての話し合い活動や実践活動を通じた思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全といった、自己の生活上の課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解するとともに、そのために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。	自己の生活上の課題に気付く、多様な意見を基に、自らの解決方法を意思決定し、実践している。	自己の生活をよりよくするために、他者と協働して自己の生活上の課題の解決に向けて粘り強く取り組んだり、他者を尊重してよりよい人間関係を形成しようとしていたりしている。

4. 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
・咀嚼回数を記録する。	・給食時の主食の1口の咀嚼回数を記録させる。 ・実態が把握できるよう、1週間実施時間を変えて計測させる。	・咀嚼回数を記録し、これまでの自分の咀嚼の多少をとらえ、食事の食べ方について考えることができている。 【記録用紙】（思考・判断・表現）

5. 本時のねらい

よく噛んで食べることよさを理解し、五感を使ってよく噛んで食べようとする態度を育てる。

6. 本時の展開

	児童の活動	指導上の留意点		資料	目指す児童の姿と評価方法
		T1 (学級担任)	T2 (歯科衛生士)		
導入 つかむ	1 かむ回数アンケート結果、給食センターの取り組み(かんちゃんマーク)を見て、気づいたことを話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 給食時の咀嚼回数別のグラフ、平均、時代別の咀嚼回数を提示し、自分達(現代人)の咀嚼回数が少なさをとらえさせる。 かんちゃんマークや「1口30回」を取り上げ、実態との差から課題化する。 		かんちゃんマーク アンケート結果の集計 時代別咀嚼回数	
課題: 本当によくかんで食べなければならないのか。					
展開 さぐる 見つける	2 食パンを50回噛んで食べ、気づいたことを交流する。 ・食パンの状態 ・口の中、口のまわりの様子 3 資料をもとに課題追究する。 ・脳の発達 ・歯の病気予防 ・運動能力	<ul style="list-style-type: none"> よく噛むとだ液がたくさん出ること・咬筋や側頭筋を使っていることに気づかせる。 よく噛むほど消化にいいことをおさえる。 食パンを50回噛んだ体験や生活経験と結び付けて実感させるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料を提示し、硬い食べ物ほど、よくあごを使うことを紹介する。 噛むと咀嚼の違いを簡潔に説明する。 4点以外のよさを説明し、「ひみこのはがーぜ」の標語を紹介する。 	サーマグラフィ画像 ・プリン ・りんご ・するめ 運動能力 脳の血流量 古代人と現代人歯並び	<ul style="list-style-type: none"> よく噛むこととの良さや自分の健康や成長との関連を理解することができる。 【学習カード・発言】 (知識・理解)
よくかんで食べると、「ひみこのはがーぜ」のように、私たちの健康や成長によいことがたくさんある。					
終末 決める	4 よく噛む習慣をつけるための方途を考える。 5 本時の学習から、自分のめあてや実践方法を決める。	<ul style="list-style-type: none"> まわりと意見を交流し、方途を出させる。 出された意見をもとに、自分が実践可能な方途を選ばせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童から出なかった方途を紹介する。噛み方や一口の量を変える。食事の時間を多くする。水で流しこまない。のどを通る感じを味わう。 		<ul style="list-style-type: none"> 自分に合った実践可能な方途を考えることができる。 【学習カード・発言】 (思考・判断・表現)

7. 事後の指導

関連する教科・・・総合 「米作り」

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
<ul style="list-style-type: none">・自分の決めた方途や実践状況を振り返る。・仲間と取組の様子を交流する。	<ul style="list-style-type: none">・チェックシートを使って状況を把握させる。・仲間のがんばりや成果を認め合い、実践の継続や改善に生かせるようにする。・通信を通して、学習内容や取組みの様子を家庭と共有する。	<ul style="list-style-type: none">・よく噛んで食べる習慣を身に付けるために、自分の決めた方途で継続的に取り組んだり、仲間の取組を参考にして方途を見直したりすることができる。【実践カード】(主体的に学習する態度)